

A 超音波検査に関する経験

超音波検査に関する質問の冒頭に、「妊娠中の超音波検査には、主に妊娠初期に膣から器具を挿入し胎児を確認する経膣超音波と、腹部の上から調べ、エコーといわれる経腹超音波の両方があります」と説明しています。

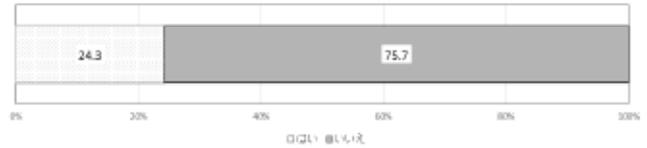
超音波検査1 医療施設に行く前に得ていた情報

「その妊娠で医療施設へ行く前に、超音波検査について何か情報を得ていましたか。」という質問に「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では、記入のあった152名のうち、「はい」が37名(24.3%)、「いいえ」が115名(75.7%)で、その妊娠で医療施設へ行く前に超音波検査の情報を得ていない人の方が多いという結果であった。

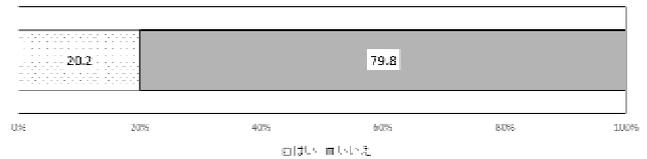
保育園調査では、記入のあった372名のうち、「はい」が75名(20.2%)、「いいえ」が297名(79.8%)で、その妊娠で医療施設へ行く前に超音波検査の情報を得ていない人の方が多いという結果であった。

図A-1 医療機関 超音波検査の事前情報入手



n=152、ただし、無回答4を除く

図A-1 保育園 超音波検査の事前情報入手



n=372、ただし、無回答6を除く

超音波検査1 医療施設に行く前に得ていた情報 ①具体的内容

医療施設に行く前に、超音波検査について何か情報を得ていたと回答した人に、どのような情報や内容を得ていたかを尋ねた。

- 医療機関調査では、記述があったのは29名で、そのうち、超音波検査で胎児の様子がわかる、胎児の障がいがあると具体的に記入があったのは7件で、「お腹の赤ちゃんがみえる」、「性別の確定。ダウン症の有無」といった記述があった。検査の方法について知っていたという記入も少なくなかった。
- 保育園調査では、記述があったのは61名で、検査の方法についての記入が多かった。そのほかに「胎児の状態(逆子など)」、「胎児の成長の確認」、「胎児の動きや大きさがわかる」、「胎児の異常がわかる」、といった記述があった。
- 両調査とも胎児の成長や発育についての言及が多くみられた。中には「成長を確認、形をみるから性別もわかる、首の後ろの部分で異常があるかみることができる」と、NT検査に関連すると思われる記述もあった。

超音波検査1 事前に得ていた情報 ②入手源

医療施設に行く前に、超音波検査について何か情報を得ていたと回答した人に、どのように情報や内容を得ていたかを尋ねた。

- 医療機関調査では、「それは誰からですか」という質問に対し、16名の回答があった。回答の内容を大きく分類すると、過去の妊娠時に医療者によって知らされた、友人や知人から聞いた、家族(母や姉)から聞いた、などに分けられる。
- 保育園調査では、「それは誰からですか」という質問に対し、38名の記述があり、うち30名が誰から情報を得たかを回答していた。医療機関と同じく大きく分類すると、過去の妊娠などの経験から医療者によって知らされた、友人や知人から聞いた、家族(母や姉、妹)から聞いた、自分自身または夫が医療職であるため知っている、に分けられる。
- いずれも、「誰から」と尋ねている質問にも関わらず、インターネットや、本・雑誌など手段についての記述があり、そこからだけということが強調してある記述もいくつかみられた。

超音波検査1 事前に得ていた情報 ③手段

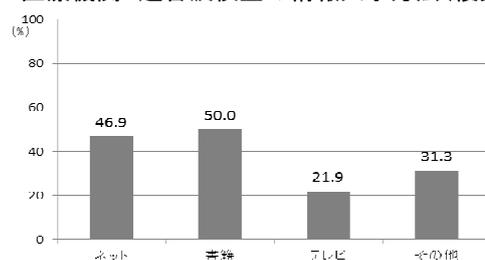
医療施設に行く前に、超音波検査について何か情報を得ていたと回答した人に、何から得たかを「インターネット」「雑誌・書籍」「テレビ」「その他(具体的に)」の選択肢からあてはまるものすべてに選択してもらった。

医療機関調査では、事前に情報を得ていたと回答した37名のうち、無回答の5名を除く32名から48件の回答があった。16件(50.0%)が「書籍」から情報を得たと回答し、ほぼ同じ15件(46.9%)が「インターネット」、「テレビ」7件(21.9%)、また「その他」は10件(31.3%)であった。

保育園調査では、事前に情報を得ていたと回答した76名のうち、無回答の1名を除く75名から87件の回答があった。42件(56.0%)が「書籍」から情報を得たと回答し、続いて「インターネット」19件(25.3%)、テレビ7件(9.3%)、また、「その他」は16件(21.3%)であった。

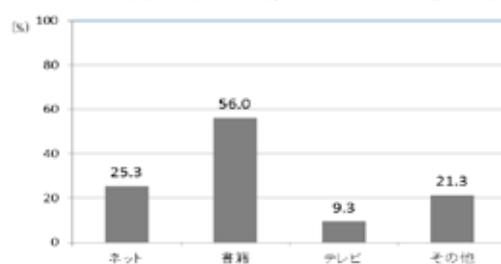
直近の妊娠時期が、保育園調査の方が前になるため、回答の前提となる、インターネットの利用状況や妊娠・育児雑誌の発行等、メディアの状況が両調査では異なり、注意が必要である。

図A-2 医療機関 超音波検査の情報入手方法(複数回答)



n=32(48件)、ただし問1でははいと回答した37のうち、無回答の5を除く

図A-2 保育園 超音波検査の情報入手方法(複数回答)



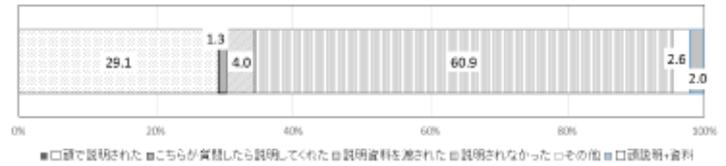
n=75(87件)、ただし問1でははいと回答した76のうち、無回答の1を除く

超音波検査2 医療者からの説明【医療機関】

「医療者から超音波検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか。」という質問に対し、「口頭で説明された」「こちらから質問したら説明してくれた」「説明資料を渡された」「説明されなかった」「その他」の中から1つ回答してもらった。

医療機関調査では、「説明されなかった」「口頭で説明された」が多い傾向であった。「説明されなかった」が最も多く92名(60.9%)、次に「口頭で説明された」が44名(29.1%)である。「説明資料を渡された」が6名(4.0%)、「こちらが質問したら説明してくれた」は数名だった。「その他」は「わからない」「覚えていない」、無回答などがそれぞれ数名であった。また「口頭で説明された」「説明資料を渡された」の両方を選択していた人もいた。

図A-3 医療機関 超音波検査の医療者からの説明



n=151、ただし無回答5を除く

超音波検査2 医療者からの説明【保育園】

「医療者から超音波検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか。」という質問に対し、「口頭で説明された」「こちらから質問したら説明してくれた」「説明資料を渡された」「説明されなかった」「その他」の中から1つ回答してもらった。

保育園調査では、記入のあった372名のうち、「説明されなかった」が261名(70.2%)と最も多かった。次に「口頭で説明された」が89名(23.9%)であった。「こちらが質問したら説明してくれた」「説明資料を渡された」はそれぞれ数名であった。「その他」は13名(3.5%)であり、その内容には、「わからない」「覚えていない」などが書かれていた。

図A-3 保育園 超音波検査の医療者からの説明



n=372、ただし無回答6を除く

超音波検査2 医療者からの説明 ①具体的内容

医療者から超音波検査の目的、方法、リスクなどについて、口頭や資料なども含め、何らかの説明を受けたと回答した人に、「それはどのような内容でしたか」と尋ねた。

- 医療機関調査では、記述のあった40名のうち、「忘れました」など具体的な記述のないものを除くと、29名に記述があった。内容が具体的に書かれたものの多くは「赤ちゃん(胎児)の様子を見る」といったものであるが、「胎児の奇形について調べる」など出生前検査であることに触れているものも少数ながらあった。「リスクはないと説明された」、「毎回しなくても良い」、という内容の記述も複数あった。
- 保育園調査では記述のあった65名は医療機関調査と同じ傾向であったが、「忘れました」「覚えていません」といった回答がさらに多く、具体的に内容の記述があった25名の中では「赤ちゃん(胎児)の様子を見る」といった内容が多い傾向がみられる。中には、「様々な病気がみつかった時、前もって知りたいですか」と、医療者から尋ねられたという記述もあった。

超音波検査2 医療者からの説明 ②評価とその理由

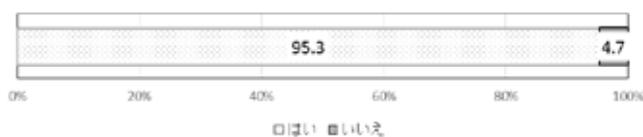
医療者から超音波検査の目的、方法、リスクなどについて、口頭や資料なども含め、何らかの説明を受けたと回答した人に、「その説明に満足しましたか」と尋ね、「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では、説明を受けたと回答した55名のうち、無回答の12名を除く43名の回答があった。「はい」(満足した)が41名(95.3%)と、ほとんどであった。

保育園調査では、説明を受けたと回答した98名のうち、無回答の28名を除く70名の回答があった。「はい」(満足した)が69名(98.6%)と、ほとんどであった。

医療機関調査、保育園調査ともに、医療者から説明された人の多くは、その説明に満足したという回答であった。

図A-4 医療機関 超音波検査 医療者からの説明に満足



n=43、ただし問2で1~3および6と回答した55のうち、無回答の17を除く

図A-4 保育園 超音波検査 医療者からの説明に満足



n=70、ただし問2で1~3と回答した98のうち、無回答の28を除く

超音波検査3 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問

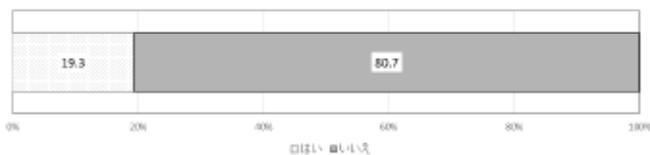
「超音波検査を受けるかどうか、医療者からたずねられましたか。」という質問に対し、「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では、記入のあった150名のうち、「いいえ」が121名(80.7%)と多く、「はい」は29名(19.3%)であった。

保育園調査では、記入のあった365名のうち、「いいえ」が344名(94.2%)と多く、「はい」は21名(5.8%)であった。

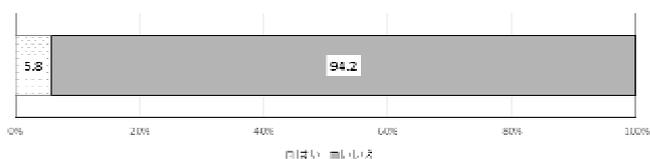
医療機関調査、保育園調査ともに、超音波検査を受けるかどうか医療者から尋ねられていない人の方が多い結果となった。

図A-5 医療機関 超音波検査について医療者からの質問



n=150、ただし、無回答6を除く

図A-5 保育園 超音波検査について医療者からの質問



n=365、ただし、無回答13を除く

超音波検査3 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問 ①時期

超音波検査を受けるかどうか、医療者から「尋ねられた」と回答した人に、「それはいつ頃のことですか。」と尋ねた。回答は、妊娠何週頃、または、具体的に記入してもらった。

- 医療機関調査では医療者から超音波検査を受けるかどうか、「尋ねられた」と回答した29名のうち、具体的に妊娠週数が書かれた回答は26名で、4週～12週という範囲であった。ただ、「よく覚えていない」や、「初期」、「初診時」と書かれた回答も少数あった。
- 保育園調査では医療者から超音波検査を受けるかどうか、「尋ねられた」と回答した21名のうち、無回答が13名あり、具体的に妊娠週数が書かれた回答は8名で、4～12週という範囲であった。
- 医療機関調査と保育園調査ともに、超音波検査を受けるか医療者から尋ねられた時期を覚えている人は、みな妊娠初期に尋ねられたと答えていた。

超音波検査4 検査を受けましたか

「超音波検査を受けましたか。」という質問に、「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では、記入のあった153名のうち、「はい」が152名(99.3%)と多かった。

保育園調査では、記入のあった367名のうち、「はい」が365名(99.5%)と多かった。

医療機関調査と保育園調査ともに、超音波検査を受けている人が大多数であった。

図A-6 医療機関 超音波検査 検査を受けましたか



n=153、ただし、無回答3をのぞく

図A-6 保育園 超音波検査 検査を受けましたか



n=367、ただし、無回答11をのぞく

超音波検査4 ①検査を受けた頻度

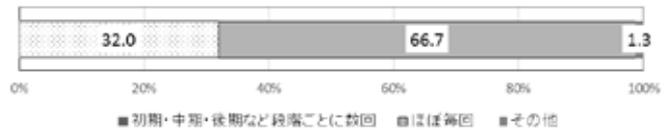
超音波検査を受けましたかという質問で「はい」と回答した人に、「どの程度受けましたか」と尋ねた。選択肢は「初期・中期・後期など段階ごとに数回」「ほぼ毎回」「その他(具体的に)」の3つである。

医療機関調査では、超音波検査を受けたと回答した人のうち、記入があった150名において、「ほぼ毎回」が100名(66.7%)、「初期・中期・後期など段階ごとに数回」が48名(32.0%)であった。「その他」はわずかだった。

保育園調査では、超音波検査を受けたと回答した人のうち、記入のあった356名において、「ほぼ毎回」が228名(64.0%)、「初期・中期・後期など段階ごとに数回」が124名(34.8%)であった。「その他」はわずかだった。

医療機関調査と保育園調査ともに、「ほぼ毎回」の回答が半数を超えており、超音波検査を受ける頻度は高いことが確認できた。

図A-7 医療機関 超音波検査 受検の頻度



n=150(超音波検査を受検したと回答した152から無回答2をのぞく)

図A-7 保育園 超音波検査 受検の頻度



n=356(超音波検査を受検したと回答した365から無回答9をのぞく)

超音波検査5 受ける／受けない理由

「超音波検査を受ける理由または受けない理由を教えてください」と記述で回答してもらった。

- 回答者のほとんどが超音波検査を受けていたため、「受ける理由」についての記述がほとんどだった。
- 医療機関調査では、超音波検査を受けた154名のうち137名がその理由を書き、「胎児の様子を確認する必要があると感じていたから」「胎児の成長を調べるため」など胎児の様子を知りたい、順調に成長しているかを確認したい、という気持ちから検査を受けたことが多く記入されていた。「無事成長している姿を見たい。実感したかった為」、「目で見て赤ちゃんの元気な様子を確認してみたい」など、自分の目で胎児を見ることに意味を見出す人たちもいた。一方で、「受けるのが当たり前と思っていたから」など、超音波検査を受けることが当然だとする意見も多くあった。この他に、「もともと内膜症などの子宮トラブルがあったので」など、自分の身体の状態を知るためにも必要だと思っている人たちもいた。
- 保育園調査では、検査を受けた368名のうち338名がその理由を書き、「受けるものだと思っていた」など検査を受けることが当たり前だとする意見が多く、その次に「そうするものだと思いこんでいたから、他に胎児の状況が分かる方法があると思えなかったから」、「胎児の健康状態などがわかるから」など、胎児の状態を知りたいとする意見が続いた。「胎児にも自分にもリスクがほとんどない検査で状態把握できると思っていたから」など、リスクや危険性がないことに言及している人もいた。「胎児の成長、異常がすぐに分かるので受けた。(100%ではないが)」など、胎児が異常だった場合に発見できることについて書かれているものもあった。
- 受けなかった理由としては、超音波検査、エコーなどの用語がわからないという内容を除くと、受けなかった理由が記入された回答はみられなかった。

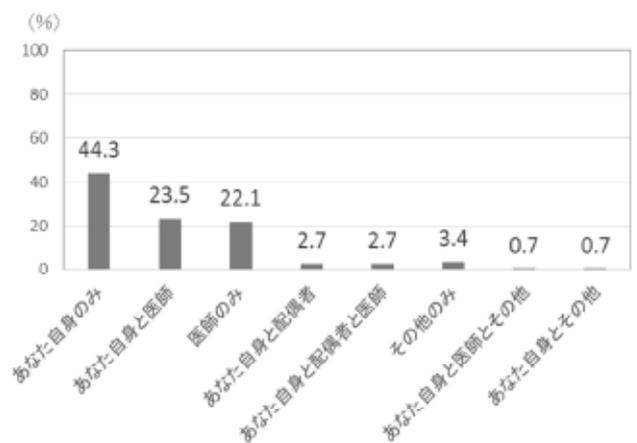
超音波検査6 受けるか受けないかを誰が決めたか【医療機関】

「超音波検査を受けるか受けないかを誰が決めましたか」と尋ね、「あなた自身」「配偶者」「医師」「その他(具体的に)」の選択肢から、あてはまるものすべてに選択してもらった。

回答の組み合わせをみると、医療機関調査では、記入のあった149名のうち、67名(44.3%)が「あなた自身」のみが決めたと回答し、続いて「あなた自身」と「医師」が35名(23.5%)、「医師のみ」が33名(22.1%)であった。また、「あなた自身」と「配偶者」、「あなた自身」と「配偶者」と「医師」はともに数名で、「あなた自身」と「医師」と「その他」、「あなた自身」と「その他」はいずれもわずかながらあった。「その他」のみは6名(3.4%)であった。

超音波検査を受けることは「あなた自身」が決めたという回答が4割以上を占めた。その他に「あなた自身と医師」、「医師のみ」という回答も2割以上あった。

図A-8 医療機関 超音波検査 受検の決定者



n=149、ただし、無記入3をのぞく

超音波検査6 受けるか受けないかを誰が決めたか【保育園】

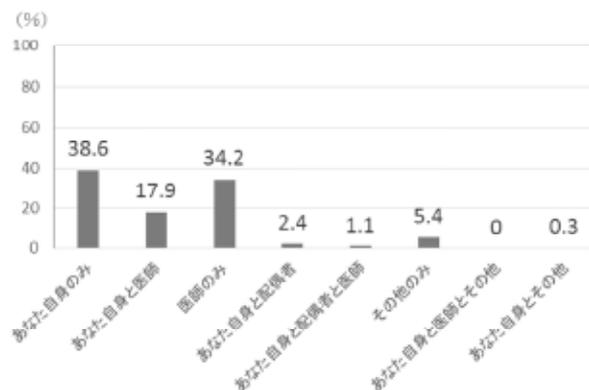
「超音波検査を受けるか受けないかを誰が決めましたか」と尋ね、「あなた自身」「配偶者」「医師」「その他(具体的に)」の選択肢から、あてはまるものすべてに選択してもらった。

回答の組み合わせをみると、保育園調査では、記入のあった368名のうち、142名(38.6%)が「あなた自身」のみが決めたと回答し、続いて「医師のみ」が126名(34.2%)、「あなた自身」と「医師」が66名(17.9%)、「その他」のみは20名(5.4%)、「あなた自身」と「配偶者」が9名(2.4%)、「あなた自身」と「配偶者」と「医師」が数名、「あなた自身」と「その他」「配偶者」のみがわずかながらあった。

誰が決めたかは「あなた自身」が決めたという回答が約4割、「医師」のみが3割以上あった。「あなた自身と医師」は、2割弱あった。

医療機関と保育園の結果を比較すると、いずれも「あなた自身のみ」が最も多いのは同じだが、医療機関では、「あなた自身と医師」「医師のみ」がほぼ同じ割合だったのに対して、保育園では、「医師のみ」が「あなた自身と医師」よりも、かなり多かった。

図A-8 保育園 超音波検査 受検の決定者



n=368、ただし、無記入10をのぞく

超音波検査7 異常の発見

「超音波検査によって何らかの異常が発見されましたか」という質問に、「はい」「いいえ」で回答してもらった。ただし、ここでは何を異常とするかについては回答者の判断に任せた。

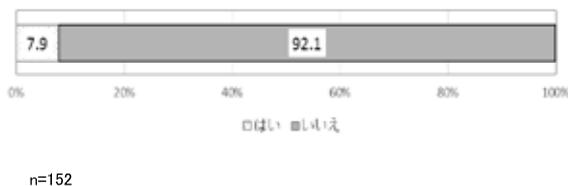
医療機関調査では、超音波検査を受検したと回答した152名のうち、「はい」は12名(7.9%)、「いいえ」が140名(92.1%)であった。

保育園調査では、超音波検査を受検したと回答した365名のうち記入があった361名において、「はい」は48名(13.3%)、「いいえ」が313名(86.7%)であった。

医療機関調査と保育園調査ともに、超音波検査を受検した人のうち、「何らかの異常が発見されましたか」という質問に「いいえ」と答えた人が多い結果となった。

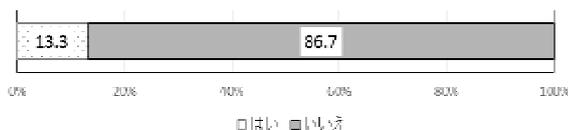
何らかの異常の発見を経験している割合が両調査で差があるが、医療機関調査では対象者の約1/4が妊娠中のため異常が発見されることが、保育園調査の対象者よりも少ないのではないかと思われる。また、保育園調査の回答者の方が平均の妊娠回数が多く、その中から、出生前検査についての印象が強い妊娠回を選択して、当該経験として記述していることなどの影響が推測される。

図A-9 医療機関 超音波検査 異常の発見



n=152

図A-9 保育園 超音波検査 異常の発見



n=361 (超音波検査を受検した365から無記入4をのぞく)

超音波検査7 ①何らかの異常の内容と②対応

超音波検査で何らかの異常が発見されたと回答した人に、「それはどのような異常でしたか」そして「その後、どのように対応しましたか」と質問し、それぞれ記述で回答してもらった。

- 医療機関調査では、超音波検査を受けて何らかの異常があったと回答した12名全員に異常の内容の記述があり、逆子や子宮内の出血などを指摘されていた。「初期(5週)胎嚢(たいのう)内に胎芽(たいが)発育がない(7週)。心拍が見えない」と病院で言われ、「9週で確認できるまで、祈って待つ」と対応したと記述されたものもあった。また、子宮内に出血の跡があると指摘され、「動きすぎを注意され仕事を退職した」という人もいた。
- 保育園調査では、超音波検査を受けて何らかの異常があったと回答した48名のうち、異常の内容について記述があったのは44名であった。その内容は、逆子、前置(ぜんち)・低置(ていち)胎盤、胎児の大きさ、羊水量などで、その多くは逆子体操をしたり経過を観察した、という記述であったが、中には「36週のとて、子どもがあと24時間しかいきられないとわかり、すぐ救急車に大きな病院へ移動し、緊急帝王切開で摘出1420g」、「胎児の心臓が動いていないことが発覚した。流産の処置」という記述もあった。「四肢短縮」、「CPC(脈絡叢嚢胞・みやくらくそうのうほう)の疑い」、「背骨の隙間」などを指摘された人もいたが、これらの人々は「経過を観察」して対応していた。

超音波検査8 結果を知らせた相手

「検査結果を誰に知らせましたか」と尋ね、「配偶者」「自分の親(親と表記)」「配偶者の親(義親と表記)」「その他(具体的に)」「誰にも知らせていない」の選択肢からあてはまるものすべてに選択してもらった。ここでは、選択肢ごとの回答状況を確認していく。

右表は、各選択肢の回答状況を組み合わせて表示している。

医療機関調査では、記入のあった144名のうち、142名(98.6%)が「配偶者」に知らせたと回答し、続いて「自分の親」が95名(66.0%)、「配偶者の親」が60名(41.7%)、「その他」が21名(14.6%)、「誰にも知らせていない」がわずかにあった。

保育園調査では、記入のあった356名のうち、343名(96.3%)が「配偶者」に知らせたと回答し、続いて「自分の親」が238名(69.7%)、「配偶者の親」が139(39.0%)、「その他」が29名(8.1%)、「誰にも知らせていない」が9名(2.5%)であった。

(親・義親が存命かを問うていないため注意が必要であるが)超音波検査の結果は、配偶者のみならず、自分の親や配偶者の親にも知らせており、保育園調査の方がその傾向が強い。一方で、保育園調査では、「誰にも知らせていない」という人がやや多くなっている。なぜ、誰にも知らせていないのか、さらに検討していく。

表A-1 超音波検査 結果を知らせた相手

	(%)	
	医療機関調査	保育園調査
配偶者のみ	30.1	27.8
配偶者・親	23.3	26.7
配偶者・義親	1.4	1.4
配偶者・その他	1.4	—
配偶者・親・義親	28.8	32.6
配偶者・義親・その他	—	—
配偶者・親・その他	3.4	2.0
配偶者・親・義親・その他	9.6	4.8
誰にも知らせていない	—	2.5
その他	0	—
親・義親	—	0
親	0	—

医療機関調査 n=144(超音波検査を受検した154のうち、無回答10をのぞく)

保育園調査 n=356(超音波検査を受検した368のうち、無回答の12をのぞく)

超音波検査9 検査についての気持ちや考え【医療機関】

「超音波検査について、気にかかったことや、あなたのお気持ちやお考えを聞かせてください」という質問し、記述で回答してもらった。

- 医療機関調査では、多くが「受けて良かった」といったプラスの評価であった。「胎児を見る事が出来て妊娠中の不安が(元気かな?など)少しでも解消できる。”赤ちゃんに会える”っていう感覚」など、胎児を画像を通して見ることの喜びなどが述べられていた。
- マイナスの評価としては、「案外、あっさりとしていて、もう少し説明してほしかった。2D写真の画質が悪い」「経膈だと細菌感染のリスクがあると知り、医療を提供する側からの説明が欲しかった」など、画像の見方や安全性について医師への説明を求めるもの、「どきどきした。何か見つかるか、どうか不安」「異常が見つかったら、以降妊娠生活を楽しめていたか分からない」など胎児の異常についての不安などがあつた。
- 「毎回経膈超音波や経腹超音波があつたが、胎児、母体を心配して…というより、『お金もうけの為』の検査と感じた。助産院にかかっていた時はほとんど超音波はなかつた。受けなくても良いものなら、それを説明して、妊婦本人に選択するようにさせて欲しい」など費用に関連した説明を求めるものもあつた。

超音波検査9 検査についての気持ちや考え【保育園】

「超音波検査について、気にかかったことや、あなたのお気持ちやお考えを聞かせてください」という質問し、記述で回答してもらった。

- 保育園調査でも、同様にプラスの評価が多くあつた。「安心する」「楽しみ」「嬉しかった」など、妊婦健診の中では、超音波検査を期待する気持ちについての記述が多かつた。
- 一方で、マイナスの評価も散見された。「経膈超音波は少し痛い時も有り、不安になる」など経膈超音波の不快感を表す記述、「超音波検査でリスクがあるなら、事前に知りたい」「・・・胎児が小さいなら、それがどんな理由でなのかわかどうしたらよいのかなど知りたかつた。分かっただけで何もできず、不安だけ残った」など、医師の説明がないことへの不満、「あらかじめ胎児の異常に気付くことは、妊婦のストレスになるような気がする」など胎児に異常がわかつた場合の不安感、逆に「妊娠初期の頃は、毎回検査ではなかつたので、最初の頃は流産しやすいし、不安だったので、毎回超音波検査して欲かつた」などの要望である。
- 少数ではあるが、費用が高いことや、画像が良く理解できないこと、実際との誤差が大きかつたことなども記述されていた。

超音波検査10 頸部浮腫(けいぶふしゅ、NT)検査を受けましたか 【医療機関】

「胎児の頸部浮腫(NT)検査を受けたことがありますか。」という質問に「はい」「いいえ」「わからない」から回答してもらった。

医療機関調査は、「はい」が5名(3.3%)、「いいえ」が111名(73.0%)、「わからない」が36名(23.7%)で、「いいえ」が最も多かった。

NT検査の受検率は、1割未満と低かったが、検査を受けたか「わからない」という回答も少なくなかった。

図A-11 医療機関 NT検査を受けましたか



n=152、無回答4を除く

超音波検査10 頸部浮腫(けいぶふしゅ、NT)検査を受けましたか 【保育園】

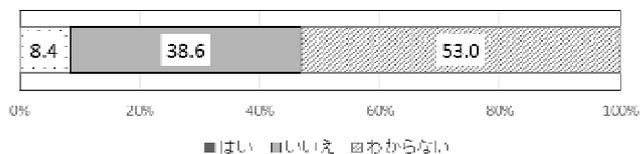
【保育園調査では、質問文の冒頭に下線部を追加している。】

「超音波検査で胎児のくびの後ろの厚みを図る、胎児の頸部浮腫(NT)検査を受けたことがありますか。」という質問に「はい」「いいえ」「わからない」から回答してもらった。

保育園調査は、「はい」が31名(8.4%)、「いいえ」が143名(38.6%)であるが、「わからない」196名(53.0%)は、半数以上であった。

NT検査の受検率は、1割未満と低かったが、検査を受けたか「わからない」という回答が最も多かった。

図A-11 保育園 NT検査を受けましたか



n=370、無回答8を除く

超音波検査10 NT検査①受検の経緯と②結果と対応

NT検査を受検したという方に「①この検査についての医療者からの説明や、検査を受けることになった経緯を簡単に教えてください。」「②検査結果と、それにどのように対応したかを教えてください。」と質問し、記述で回答してもらった。

- 医療機関調査では、NT検査を受けることになった経緯について記述されていた特徴は、NT検査についての知識があったことと、受けることを最初から希望していたことであった。NT検査の結果、異常があるという回答はなかった。
- 保育園調査では、NT検査を受けることになった経緯について記述していた29名のうち、半数弱は「通常の健診時に『くびのむくみはありません』と言われた。特に説明はなし」など、NT検査を受けるかどうか尋ねられないうまま、通常の妊婦健診で実施されていた。他に、「NTというのがあるそうだから調べて欲しいと自分から言いました」など自分から希望した人も複数いた。NT検査の結果については、無回答があったが、ほとんどは「異常なし」という結果であった。ただ、中には(人工流産か死産の)「手術を受けた」という記述や、「配偶者と相談して経過をみることにした」という人もいた。

超音波検査11 NT検査についての気持ちや考え【保育園】

(回答者全員に対して)「頸部浮腫(NT)検査についての、あなたのお気持ちやお考えを聞かせてください」という質問し、記述で回答してもらった。【保育園調査のみの質問】

- 209名の記述があったが、そのうち86名は「わからない」「覚えていない」といった回答であり、「特になし」など無記入に近いものを合わせると90名がNT検査についての気持ちや考えを回答してなかった。
- NT検査について記述していた119名の中でも、自分がNT検査を受けたかどうかわからない、と答えた人たちがいた。「今になって思い出すと、私たちがクワトロテストを受ける前か後に、医師から首の後ろの厚みがないから、問題はないでしょう、と言われた」など、通常の妊婦健診でNT検査を実施している、と思われる記述があった。
- 「受ける必要性があるなら医師から話があると思っている」というように、NT検査を受けるかどうかの確認が医師からなかったのは、自分は受ける必要がない、と認識している人もいた。
- 自らインターネットでNTについて調べたと記述した人たちも10名ほどいた。
- その他にNT検査についての気持ちや考えとして、「急に経過観察と言われたり、子供がダウン症かもしれないと言われ不安になった」、「もし異常があった場合、次の詳しい検査や出産前後のリスクについて心構えでできるのではないかと思います。」、「これがどんな病気の発見につながるか、事前にパンフレットでももらえていた方がよいと思うが、病院はどこも忙しそうで、その余裕はないように感じる。」など様々あった。